

スポーツ推進計画 新たな取り組み（案）その1

- 1 早朝スポーツの日、夜間スポーツの日を実施
七宝総合体育館・甚目寺総合体育館の開館時間は9:00~21:00ですが、6:00~9:00、21:00~23:00の日を月に数回実施。
 - 忙しく、施設利用時間が合わない方のために施設開放時間を変更する。
 - ※「あま市体育施設の管理及び運営に関する規則」第2条により、教育委員会が特に必要と認めたときは、利用時間を変更できる。
 - スポーツ実施率の増加
 - 使用料については条例に定めが無いため、市のイベントとして実施。
 - 電気料金等必要な予算の確保。

- 2 スポーツの日を実施
七宝総合体育館・甚目寺総合体育館を年に数回無料の日を決め、アリーナであっても無料で利用していただく。
 - 気軽にスポーツができる環境を提供し、スポーツに関心を持ってもらう。
 - スポーツ実施率の増加
 -

- 3 スポーツチャレンジデーの実施（近隣市町村では、大治町、飛島村が実施）
※スポーツチャレンジデーの概要は別紙を参照
 - 場所、年齢問わずスポーツを始めるきっかけとなるイベント
 - 市を国内外にアピールできる
 - 自治体対抗という画期的な取り組みにより、自治体の交流促進やまちのにぎわい創出の一助になる
 - 自治体の政策、施策、事業にも活用されている（スポーツ関連計画）
 - スポーツ実施率の増加
 - スポーツ推進委員などスポーツ関係団体との連携・協力が必要
 - 事業費を予算化する必要がある。

- 4 七宝・甚目寺総合体育館の時間区分の改正
隙間時間の多い現在の時間区分について、利用実態に合わせた時間区分にする。
 - スポーツ実施率の増加
 - 施設の有効活用による利用収入増
 - 利用団体によっては活動費が軽減される、または、より活動が活発になる。
 - 利用実態調査及び条例改正を行う必要がある。
 - スポーツをする活動場所の提供

- 5 あまスポーツクラブの講座チケットを体育館回数券や教育委員会事業（走ろう・歩こう会など）とで利用できるようにする
- あまスポーツクラブの会員増を図る。
 - スポーツ協会が行う市民大会や教室でもあまスポーツクラブの講座チケットが利用できるよう指導、助言をする。
 - スポーツ実施率の増加
 - スポーツ推進計画の「支える」という観点から、補助金だけでないスポーツ団体への支えの一つとなる
 - 利用料徴収の条例改正を行う必要がある。
- 6 利用種目によって団体登録の登録人数の緩和
- ・あま市体育施設の管理及び運営に関する規則第4条第2号では「市内に在住し、在勤し、又は在学する者おおむね10人以上で構成すること。」としているが、テニスなど利用種目によっては条件（スポーツ協会加盟団体に限るなど）を付した上で10人以下の団体登録も認める。
 - スポーツ実施率の増加
 - 施設の有効活用による利用収入増
 - 利用実態調査及び規則改正を行う必要がある。
 - スポーツをする活動場所の提供
- 7 社会体育施設の環境美化
- グラウンドなどの草刈、石拾い、ゴミ拾い、清掃する日を各施設とも年1回半日程度実施。その施設を利用している団体を主とし、スポーツ協会、スポーツ少年団、スポーツ推進委員会にも参加していただく。
- 利用者の施設利用に対しての適切な利用意識の向上、市民協働。
 - 平日に実施は困難である。
- 8 団体利用の継続活動支援
- 施設を利用する団体に対し、施設予約が定期的に利用できないと団体の活動に支障がでるため、スポーツ少年団やスポーツ協会の各加盟団体及びNPO法人あまスポーツクラブなどは優先的に予約する。また、大会や行事についても周知期間等の事前準備も必要であるため、日程調整をする。
- 各団体が安定して活動できる。特にスポーツ少年団は青少年健全育成の観点から必要である。
 - 優先予約を多くすると、一般団体に支障がでる恐れがある。

9 運動部活動の在り方

少子化によって子どもの数が減り、学校や競技によって人数が足りずチームが組めないため「合同部活動」とすることで、人数不足でやりたい競技を諦めざるを得ない子どもたちを救っていく。

○子どもたちにとって、参加しやすいスポーツ環境を整える。

⇒近隣の学校が集まってひとつのチームを組む。

○総合型地域あまスポーツクラブや民間のスポーツクラブ、スポーツ協会及びスポーツ少年団による運動教室を始め子どもの多様なニーズに対応した活動を連携して推し進めていく。

⇒レクリエーション部やヨガ部、軽運動部といった「ゆる部活」の提供。

10 新競技の追加

社会体育施設を整備し、フットサル等これまで利用できなかったスポーツを実施できるようにする。

(七宝・甚目寺総合体育館補強→フットサル)

(宝・西今宿ゲートボール場→スケートボードパーク)

○新たな層のスポーツ人口の増加。

●大規模な予算が必要。

11 市内各所にウォーキング、ジョギング、ランニングコースを設定する。

市内のウォーキングコースに「距離看板(500m、1km・・・)」を設置し、コース利用者がどれだけの距離を歩いたか(走ったか)わかるよう目標があることにより運動する意欲を向上させることができる。

○忙しい層の実施率を向上させる。

12 幼少期からスポーツを好きになるよう、市内保育園、幼稚園にスポーツ少年団の紹介、NPO法人あまスポーツクラブの教室や講座の紹介、その他スポーツ関係団体の事業等をPRする。

13 スポーツ少年団・スポーツ協会・NPO法人あまスポーツクラブの無料体験会を実施する。

○スポーツをする機会を積極的に提供し、まずは知ってもらうことを中心にその後の実施率向上につなげていく。